GAIDAI 図書館報

BIBLIOTHECA

2026.4 SPRING 245

京都外国語大学付属図書館
京都外国語短期大学付属図書館

ISSN 0285-2004



特集

レトロモダン建築

―京都の中の西洋を探して―

GAIDAI 図書館報
2026.4 SPRING 245

BIBLIOTHECA

京都は寺社仏閣や京町家など、和建築の街並みで有名ですが、実は明治や大正期に建てられた洋建築も数多く残されています。

今号では、そんな数ある洋建築の中のいくつかをご紹介します。おそらく皆さんが普段何気なく歩いている京の街並みに、歴史ある素敵な洋建築が点在していることがわかっていただけると思います。

それでは、京都の中のモダンで素敵な「西洋」を探して、一緒に歩みを進めてみましょう！

（図書館 / 榎本恭子）

CONTENTS

特集　**レトロモダン建築 ー京都の中の西洋を探してー**
3　**長楽館　おもてなしの心を受け継ぐ百年の歩み**
8　**関連図書紹介**
9　**三条通モダン建築MAP**
11　**関西日仏学館　フランス - 京都における歴史的な存在**　サンドリン ムシェ
13　**本学の貴重書コレクションより**　YAAMI ～往時の楼～
15　**Book Review**　図書館の新着図書より
17　**Library News**　2026年1月-6月
19　**分館紹介**　アジアの風　アジア関係図書館だより（9）
20　**学生の見た世界の大学図書館**　カナダ ノースアイランドカレッジ
21　**英語多読プログラムの現在地**　笠巻知子、吉田真美
23　**他者を生きる　ポルトガル文学の翻訳**　上田寿美
25　**LIBRARY SEEKERS NEWS**　大垣書店 堀川新文化ビルヂング店
27　**寄贈図書**
28　**日本の歴史（78）**　信長 秀吉 家康はグローバリズムとどう戦ったのか
29　**世界のほんの話（5）**　多面性を持つ魂と言葉の世界　ペドロ・アイレス
30　**館長のひとりごと（1）**　「偽の友達」には要注意



新入生の皆さんへ

図書館長
舟杉 真一
教授・フランス語学



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

京都外国語大学付属図書館を代表して、皆さんを心より歓迎いたします。

今日から皆さんは、世界の言語と文化を学び、自らの視野を大きく広げていく旅に踏み出します。その第一歩を、この歴史と文化の都・京都で迎えられることは、きっと皆さんの学びを豊かにしてくれるはずです。

京都には、学びの原点を思い起こさせる場所が数多くあります。たとえば、今回の特集でも取り上げてあります関西日仏学館（アンスティチュ・フランセ関西）。1936 年に建てられたモダン建築は、フランス語教育と文化交流の拠点として長く親しまれております。異文化への好奇心と対話の精神が息づくその空間は、まさに皆さんがこれから歩む「外国語を通じて世界とつながる」という道の象徴でもあります。ぜひ一度足を運び、建物の佇まいとそこに流れる空気を感じてみてください。語学を学ぶことが、単なる知識の習得ではなく、人と文化を理解し、世界を広げる営みであることを実感できるでしょう。

また 2024 年 12 月に重要文化財に指定された円山公園の長楽館も、皆さんの学びに静かな示唆を与えてくれます。明治から大正期の趣を残すその建物は、京都の近代化とともに歩んできた文化の記憶を今に伝えています。春には桜が咲き誇り、四季折々の風景が訪れる人々を包み込みますが、その背景には、長い年月を経ても大切に守られてきた「文化を継承する力」があります。言語を学ぶこともまた、過去から現在へ、そして未来へと受け継がれる文化の流れに触れることです。円山公園の静かな佇まいは、皆さんにそのことをそっと語りかけてくれるはずです。

図書館は、皆さんがこうした京都の文化と響き合いながら学びを深めるための拠点です。世界の言語で書かれた書籍、学術資料、デジタルアーカイブ、そして静かに思索にふけるための空間。ここには、皆さんの知的好奇心を受け止め、広げるための環境が整っています。わからないことに出会ったとき、もっと知りたいと思ったとき、あるいは心を落ち着けたいとき、どうぞ図書館の扉を開いてください。そこには、皆さんの学びを支える多くの仲間と、無数の知の世界が待っています。

これからの大学生活では、言語を学び、文化を知り、人と出会い、自分自身の可能性を発見する機会が数えきれないほど訪れます。京都の街に息づく歴史と文化を感じながら、図書館を存分に活用し、自らの世界を大きく広げてください。皆さんの学びの旅が実り豊かなものとなるよう、図書館スタッフ一同、心を込めてサポートしてまいります。

改めて、ご入学おめでとうございます。これから始まる新しい日々が、皆さんにとってかけがえのない時間となりますように。

写真：長楽館 外観（長楽館 提供）


食堂（フレンチレストラン ル シェーヌ）

長楽館

おもてなしの心を受け継ぐ百年の歩み

本学から四条通をまっすぐ東へ向かうと、八坂神社に突き当たります。神社の奥には祇園枝垂桜で有名な円山公園があり、長楽館（村井家別邸）はその公園の南に佇む、京都を代表する洋館です。

今から 117 年前の明治 42 年（1909）年に、実業家であった村井吉兵衛により国内外のお客様を接遇する迎賓館として建築されました。現在この長楽館はホテル・レストラン・カフェ・ブライダルなどで、私たちをおもてなししてくださる施設となっています。


お話をうかがった
吉田重人総支配人

今回、総支配人である吉田重人様に、この建物の歴史や、現在の事業についてお話を伺いました。百年の時をこえて、今もなお、村井吉兵衛の精神が受け継がれていることに、深い感銘を受けました。

長楽館を建てられた村井吉兵衛

京都出身の村井吉兵衛は「煙草王」と言われ、明治時代の日本に両切り煙草を広めて財を成した人物です。商品の宣伝方法や製造方法がユニークでアイデアマン、かつ実行力が高く、煙草産業というビジネスを大成功させました。そして、今の JT（日本たばこ産業株式会社）の元となった会社を作りました。

私が個人的に村井吉兵衛の大好きなところは、ホスピタリティマインドがとても強いところです。また、好奇心旺盛で新しいもの好き、人が喜んだり驚かせるのも好きな、チャーミングな人だったであろうことは、残された資料や写真、この長楽館を拝見してもよく分かるところです。


村井吉兵衛（写真：個人蔵）

建物にはさまざまなおもてなしの工夫がなされています。意匠はもちろん、世界各国を描いた絵画を飾ったり、温室で珍しい植物を栽培したり、さらに最上階には和室もある。建物の中には来客を楽しませようという気持ちが溢れています。

長楽館は村井吉兵衛が日本のため、京都のために建ててくれた建物だと認識しています。自身の富を見せびらかしたりするようなものではありません。その時代背景からすると、日露戦争が起こり日本にお金がない時期で、かつ京都に迎賓施設がなかった頃です。村井吉兵衛は煙草事業を売却（＝煙草産業は 1904 年に「煙草専売法」が施行され、民営から国家専売になった）したお金の使い道を「京都へ恩返し」と考えられたのだと思います。本来、こちらは私邸で、村井邸ということになりますが、「長楽館」と伊藤博文が名付けてくださったということは、迎賓施設として扱う意図があったと我々は考えています。


伊藤博文が書いた「長楽館」の扁額

また、長楽館のオープニングパーティーに集まった面々は、渋沢栄一や井上馨など、西洋と文化外交をされてきた人々です。日本の迎賓施設であった帝国ホテルや鹿鳴館などの設立者が集まっているところを見ると、やはり同じ意図があったのだと思います。日本が西洋化するにあたり、それなりの施設を持っていないと、先進的な国、文化的な国だというところを示せないため、それに相応しいような建物を私財を投じて建ててくれたのです。

もちろん、当時は外交官制度が今ほど発達しているわけでもないので、個人で海外の方のおもてなしをされていました。そういった彼の思いを私たちは伝えていかなくてはいけませんし、だからこそ長楽館は 117 年受け継がれているのだと思います。


御成の間

長楽館を訪れた人物

訪れた歴史的人物は、日本人では、伊藤博文、西園寺公望、山縣有朋、井上馨、大隈重信、渋沢栄一、高田早苗や、閑院宮などの皇族の方々がいらっしゃいます。

また、海外の方では、当時のアメリカ副大統領のチャールズ・W・フェアバンクス氏ご夫妻、大正天皇の御大典の際にはロシアの特派大使ニコラス・マレヴスキー＝マレウイッチ氏と、イタリアの特派大使グイッチョリ氏が宿泊されています。

イギリス王室関係だと、コンノート殿下（ヴィクトリア女王の孫、アーサー王子）が宿泊されています。ウェールズ殿下（後のエドワード８世・ウィンザー公爵、「王冠を賭けた恋」で有名）も京都にいらっしゃった際、長楽館へお立ち寄りになったそうで、こちらは当時の新聞にも載っております。

一部の書籍にはロックフェラー氏が来館されたという記述がありますが、時代背景的には２代目の可能性が高いかと思われます（初代は 1937 年没）。ロックフェラー氏と村井吉兵衛の交流の資料としては、東京で村井吉兵衛がロックフェラー一行をおもてなしした際の手紙のやりとりが残っているようです。

3 階の茶室や御成の間など和室の当時から今に至るまで利用のされ方

長楽館は海外の要人をお迎えする施設のため、それまでも和のしつらえはありましたが、最上階の格式ある折上格天井（おりあげごうてんじょう）の和室「御成（おなり）の間」は、大正天皇の御大典の際に改装して作られました。


御成の間の天袋の襖絵（京都市文化財保護課提供）

こちらの襖絵は皇室にあるものと同じタイプで、淡路島を詠んだ百人一首の歌のモチーフ（78 番「淡路島 かよふ千鳥の 鳴く声に 幾夜ねざめぬ 須磨の関守」源兼昌）を描いています。美術研究家の先生曰く、和歌のモチーフを襖に入れることで、来られる方の知性を試しているのではないかとのこと。長楽館以外で使用されている襖はほとんどが武家タイプのため、皇室タイプの襖が見られるのは珍しく、ここだけではないかとおっしゃっていました。

この御成の間は文化財でも二つとないものなので、今は一般的には公開していません。ただ、ご婚礼（祝言）の時に使用したり（食事などの提供はなし）、ホテルに宿泊される方でご希望があればご案内もしています。また、特別なイベントで、中秋の名月や桜の時期など、ドリンクだけご提供することもあります。

長楽庵は元々お茶室ですが、現在は茶室としては使われておりません。お茶会は人数的なことや導線のことがあり、過去においては数回使用したとは聞いておりますが、残念ながら今は水屋の水も止まっています。ただ、茶室利用のご希望をいただくこともあるので、今後茶室として使用できるよう検討しようと考えています。

これら最上階の和室は、展示会やイベントの際に美術品を展示したりもしていますが、茶室などは本来の目的で使っていただくと、施設も喜ぶのではないかなと思います。

2024 年に国の重要文化財に指定された経緯と建物を維持するためのメンテナンス

元々長楽館は 1986 年に京都市の有形文化財の指定を受けていました。そこから改めて調査していただき、結果、重要文化財に値するという判断となりました。保存状態がいいというのも勿論ですが、平面計画が迎賓施設として優れているというところが主たる理由のひとつです。

この建物を設計したジェームズ・ガーディナーの作品は他にも現存しているそうですが、その中でも長楽館は



迎賓の間（カフェ）

いうことを更に強く意識するようになりました。

ただ直せばいいというものではなくなり、一定のクオリティが担保された業者さんにお願いすることになります。相見積を取り、安いからこちらに決めようというやり方はできません。ですが、しっかりと専門家のご意見もいただけるので、非常に前向きにとらえています。

保存状態については前のオーナーさんが大切に修復を重ねてくださっていたところが大きいです。そして今回重要文化財指定になったことで、業者さんにも同じように、現状維持を第一に大切にしようと思っていただける。そして何よりスタッフの気持ちが変わり、ありがたく思っています。

優れた技量が反映された建物であり、彼の代表建築と言えるだろうと聞いております。

エントランスより入って右にドローイングルーム（＝“Withdrawing Room(引き下がる部屋)”、現在はアフタヌーンティー専用室、迎賓の間)、その対面に食堂（現在はフレンチレストラン LE CHENE）があり、その間に半地下と中二階のお部屋という構成になっています。半地下には元々ビリヤード場（現在はカフェ、球戯の間)、中二階は喫煙室（現在はカフェ、喫煙の間）が設けられていました。

お客様がお食事を楽しまれた後、男性はお煙草やビリヤード、女性はドローイングルームに入ってお茶を楽しんでいただくという、迎賓施設としての平面計画になっています。

また、階段周りの空間美も非常に優れているということでした。空間の作り込みがとても綺麗なんです。構造的には少々脆弱らしいのですが、見た目を重視した大きな吹き抜けになっています。



本館ロビー階段

半地下や中二階など、巧みに階高を変えているところも特徴的で、ステップで変化を付けることで視界の印象を変えています。また、部屋ごとに意匠が違い、今のフレンチレストランである旧食堂の間は重厚感や威厳のある様式に、迎賓の間は華やかなロココ調、喫煙の間は中国・イスラム調にしてあり、和室に関しても御成の間や茶室など、用途に合わせて中の意匠やデザイン、インテリアに変化を付けています。外から見て和室があると分からないところも大きな評価を受けました。

調査期間は 2、3 年くらいで、調査希望をいただいてから、重要文化財指定の公表まではかなり間が空きました。事前に指定の打診をいただいたのですが、釘の一本も打てなくなるのでは、などの不安材料があり、諸手を挙げてすぐに指定してくださいとは言えませんでした。ですが、制限に関しては京都市の指定文化財と大きな違いはありませんでした。一方で、メンテナンスに関しては、これまでより京都市を通じて密接にやりとりしています。オリジナルの現状を維持すると

カフェ・レストラン・ホテル・ブライダル経営について

我々は基本、この館を使わせていただいている身のため、後世に残していかなくてはいけないと思っています。そうすると、大勢のお客様を一度にお迎えするというビジネスモデルは、保存の観点からはなかなか難しいため、この価値が伝わるように少数のお客様をしっかりおもてなしするという方向を目指そうとしています。その一環として「世界を魅了する唯一無二の京都」というビジョンを掲げています。昨年には、世界の人が「京都に行ったら長楽館へ行ってみよう」というような、ちょっと特別な存在にしようと、SLH（スモール・ラグジュアリー・ホテルズ・オブ・ザ・ワールド、本部はイギリス、日本では長楽館含めて加盟ホテル 18 軒）という会員組織に加盟させていただきました。館全体として知名度を上げ、そういった施設であるということを知ってもらおうと考えています。色々な事業を行っていますが、スタンダードを上げようとしている段階です。

館の魅力を伝えるという点で、ブライダル利用も強化してきました。マーケット的には縮小傾向の逆風ですが、おかげさまで我々はお客様がどんどん増えている状態です。それは、この建物の魅力を評価いただけているからだと思っています。お客様の特別な日を祝う場として使用することは、村井吉兵衛がおもてなしの館として作った当初の目的に一番沿っていると感じています。

ホテル長楽館の客室は全６室のみですが、外国の方にも知名度を上げていきたいと考えていることや、SLH に加盟させていただいたことで海外の方のご利用も増えていることから、宿泊・レストラン・カフェは、英語を話せる方を優先して採用しています。特に宿泊に関しては、お客様と接する時間が長く、よりきめ細やかな対応が求められることから、英語でのコミュニケーションが必須となっています。

他の京都のホテルさんでは９対１で外国人利用の宿泊が多いと思いますが、当館は逆で日本人利用が８～９割ぐらいです。当館ではバトラーサービスのように、一人のスタッフが一組のお客さまを担当しています。大型ホテルのようにチェックインやチェックアウトの時だけご挨拶するのではなく、チェックインからチェックアウトまで、滞在中の予定など、滞在を充実したものにするためのさまざまなヒアリングをしながら対応しています。宿泊担当のスタッフはとても大変で、食事をしながらお客様の過去のご利用情報を確認したりしています。前回の滞在中にされたことや、行かれた場所、会話のメモなど、暗記した上でサービスしています。

レストランについても一緒です。過去の履歴など、召し上がったものや飲まれたものを全て記録していますので、それらを事前に学習してお迎えし、会話に繋げていくスタイルです。大変なところですが、やりがいがあるところでもあります。

カフェに関しては、海外のお客様の比率は館内で一番低いです。アジアの方に毎日５～１０人くらいご利用いただいていますが、洋館ということもあってか、西洋の方のご来館は多くありません。ただ、西洋の方にも「京都に来たら長楽館に行ってみたい」と考えてもらえるようになりたいという思いがあります。



現在はカフェの喫煙の間

長楽館のカフェといえばアフタヌーンティー メニューなどで工夫されているところは？



アフタヌーンティー

アフタヌーンティーはお部屋（迎賓の間）の雰囲気にマッチするというところに一番気を付けており、伝統的なイギリス式の三段のケーキスタンドでお出ししています。

全体的なところでは、料理のクオリティを重視しており、セイボリーは全てフレンチレストランのスタッフが作っています。スイーツも毎日パティシエが作っており、防腐剤や人工着色料などは一切使いません。スタンダードで奇をてらわない形でやっています。メニューは１～２ヶ月くらいで変更し、季節に合わせたフルーツなどを、その時期のテーマに合わせて提供しています。紅茶も色々な特色を持たせ、オリジナルブレンドを含めて、さまざまなものを召し上がっていただけます。

長楽館は家具も文化財指定を受けており（文化財附(つけたり)指定、文化財の一部として取り扱う同等の価値あるもの)、特に迎賓の間のほとんどの家具は創業当時からのものです。そういった文化財の椅子やテーブルを使用しながらお楽しみいただけるということもポイントです。

食器にもこだわりを持っていて、アフタヌーンティーではハンガリーのヘレンドのポットを使っていたり、フレンチレストランでは大倉陶園の食器を使用しています。そういった、お部屋の雰囲気を壊さないようなしつらえにしているというところも気を配っているところです。

また、お一人様でもアフタヌーンティーを利用いただけます。お客様からのご要望も多かったため、２階のスペースにてお一人様からご案内しております。

また、数年前から東京の三越伊勢丹さんからお声がけいただき、日本橋の三越本店での催事出展も行っています。催事では、紅茶と合わせてスコーンとヴィクトリアケーキなどを盛り合わせたクリームティーを提供しており、3、4年も続けていると、リピートしてくださる方もいらっしゃいます。長楽館の世界観を出すのが非常に難しいのですが、ありがたいことに好評をいただいています。

今後の長楽館について 目指していることや方向性など

先ほど申し上げたように、「世界的に認められる施設になる」ということを目指していますので、そのためにはさまざまなレベルアップをしなくてはいけないと思っています。ブランドとして認知されるには統一感が大切で、サービスや細かな掲示物、ディスプレイ、宣伝広告なども含めて、全て統一したイメージにしていかなくてはと思っています。ブランドとしてどう認知されるのか、という視点が重要です。様々な異なるイメージがあっても、統一感を持って打ち出し、価値をどう広めていくかという所です。そこができていれば、今後スイーツなども長楽館ブランドとして積極的に販売していけると思っています。ケーキやクッキーなど「長楽館だったら間違いないよね」と言っていただけると非常に嬉しいなと思います。とにかく手間暇をかけてお作りしていますが、そうしたことを前面に出しすぎないのが、京都らしい美意識でもあると感じています。

また、我々は生涯顧客化を目指しており、ご婚礼の方も含め、何世代にもわたってご家族で長く使っていただける、そういった施設になるよう頑張っているところです。

世界の人たちにも京都に長楽館という建物があるんだよ、京都に行ったら行ってみたいね、と言われる施設になろうと努めています。

もう一つ付け加えると、海外の方に認知を上げていくには、いい施設というだけではなく、我々が大切にしている価値観を発信しなくてはいけないと思っています。アーティストの方々から、ここは元々内装を含めて美術・芸術の館だとおっしゃっていただくことがよくあります。京都の素晴らしいものを海外に発信する展示会を行うなど、我々が大切にしていることを発信していくことが海外の方へは響くのではないかと思います。単に昔の文化財というだけではなく、そのような思想を持っている、というところを発信しなくてはいけない。今後、積極的に京都のアートや地元の方の素晴らしい芸術を我々が広めていくことは、一つの大きなテーマだと考えています。

今、毎年９月末の日曜日に芸術祭というイベントを行っていて（2025 年 9 月 28 日で 4 回目）、その際には御成の間などを開放し、京都の伝統工芸の方に展示会をしていただいたり、ピアノやヴァイオリンのコンサートを行ったり、芸術関係の学生さんに参加いただいたりしています。やはりそういった積極的な活動が必要かなと思っています。



長楽館（外観）

最後に本学の学生に向けて一言

京都外国語大学の学生の皆さんは外国語を学んでいらっしゃる方が多いと思います。ただ言葉を学ぶことだけが目的ではなく、言葉は手段であり、それを通じて人と人をつなぎ、学んだ言葉を知ることで、その国々の文化を理解するということに意味があるのではないでしょうか。

海外の方に日本の良さを伝え、同時に日本文化を理解していただく。そのような人と文化を繋げる仕事に就かれる方もいらっしゃると思います。

AI の時代になり、言葉の意味そのものは翻訳技術などによって容易に得られるようになりました。しかし、人と人のコミュニケーションというのはそれだけは成り立ちません。相手を理解すると同時に、自分自身のことも理解しなくてはいけませんし、お互いのバックグラウンドにある文化や価値観に思いを寄せることが、その根底にあるのだと感じています。長楽館もそうした人や文化をつなぐ場であり続けたいと考えています。

異なる国の人々と心を通わせることは、とても素晴らしいことです。そのためには、相手のことを知ろうとする姿勢が何より大切です。長楽館の迎賓の間には、さまざまな国の風景を描いた絵画（洋画家・高木背水の作品）が飾られています。それらは、創建者である村井吉兵衛が、海外からの賓客に対し「このような世界がある」という話題を生み、会話を通じて相手の関心や背景に、寄り添いながらもてなすために設えたものだと考えています。つまり、相手を知ろうとすること。そこから人と人との関係が生まれ、文化の理解へとつながっていくのだと思います。

語学は、世界と向き合うための価値ある学びであり、特に京都という土地でそれを学ぶことには、より深い意味があると感じます。その気持ちや志を、どうか大切にしていただきたいと思います。そうした学びに携わっていらっしゃる皆さんの未来は、今後ますます価値あるものになっていくことでしょう。

（取材：榎本恭子、戸田奈緒子）

長楽館（旧村井家別邸）

1904 年建設着手、1909 年竣工
設計：ジェームズ・マクドナルド・ガーディナー（アメリカ聖公会宣教師、建築家、立教大学校初代校長）、京都では京都聖三一教会（現：聖アグネス教会、平安女学院キャンパス内、京都市指定有形文化財）、京都聖ヨハネ教会堂（現在は愛知県の博物館明治村に移築保存）を設計
施工：清水満之助店（現：清水建設）
命名：伊藤博文
2024 年 12 月国の重要文化財指定（門及び塀、家具 51 点と共に）

清水建設歴史資料館 村井吉兵衛別邸「長楽館」
https://www.shimzarchives.jp/heritage/heritage_393/

村井吉兵衛

文久 4（1864）年～大正 15（1926）年
明治の煙草王と呼ばれ、日本政府の煙草専売制後は村井銀行を設立。他さまざまな事業を成功させ、村井財閥を形成した。

長楽館の他に村井吉兵衛が建てた建築物（現存建築）
・村井銀行祇園支店：「CANDY SHOW TIME 京都祇園店」（設計：吉武長一）
・村井銀行七条支店：ギャラリー「京・ART」（設計：吉武長一）
・東京の本邸（山王荘）：門が現在は日比谷高校正門して使用され、茶席は根津美術館に移築、そして邸宅の一部が「比叡山延暦寺 大書院」として使用（設計・武田五一）

関連図書紹介 ー 京都モダン建築の本棚

京都のあちこちに実はたくさん存在している、明治・大正時代に建てられた「レトロモダン」な洋風建築。その多くがホテルだったり、商業施設だったり、カフェだったりと、現在も実際に活用されています。それらの建物を紹介している本を集めました。今まで知らなかった京都の、古くて新しい一面に出会えるかもしれません。



旧村井家別邸(長楽館)建造物調査報告書

長楽館 編
長楽館
資料 ID：669735
請求番号：523.162 || Kyum



日本の洋館
歴史遺産　第二巻明治篇Ⅱ

藤森照信 著、増田彰久 写真
講談社
資料 ID：523488
請求番号：523.1 || Fuj || 2



漱石全集

夏目金之助 著
岩波書店
資料 ID：421513
請求番号：918.68 || Nat || 19

第 19 巻、p.284
夏目漱石「日記・断片」の「日記３」
明治 40 年 3 月 29 日に「祇園に行く。公園ハ俗地なり。平野屋、中村楼抔云ふ料理屋あり。村井兄弟の西洋館建築中。八阪弥ホテル（也阿弥ホテル）の焼残り頗ル見苦し」と記載あり。



京都レトロモダン
建物めぐり（増補改訂版）

片岡れいこ 著
メイツユニバーサルコンテンツ
資料ID：668593
請求番号：523.162 || Kat



京都の洋館

石川祐一 著、神崎順一 写真
光村推古書院
資料ID：617356
請求番号：523.162 || Ish



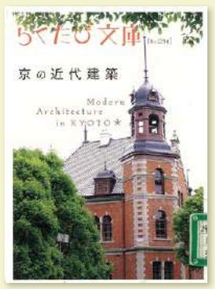
建築MAP京都

ギャラリー・間 編
TOTO出版
資料ID：551031
請求番号：521 || Kenc



京都のモダニズム建築
Modernism architecture in Kyoto

河野良平 著
美学出版
資料ID：643275
請求番号：523.162 || Kon



京の近代建築

たかぎみ江 文、福尾行洋 写真
コトコト
資料ID：529603
請求番号：291.62 || Raku || 34



歩いて、食べる
京都のおいしい
名建築さんぽ

甲斐みのり 著
エクスナレッジ
資料ID：652686
請求番号：523.162 || Kai



京都洋館ウォッチング

井上章一 著
新潮社
資料ID：562528
請求番号：523.162 || Ino



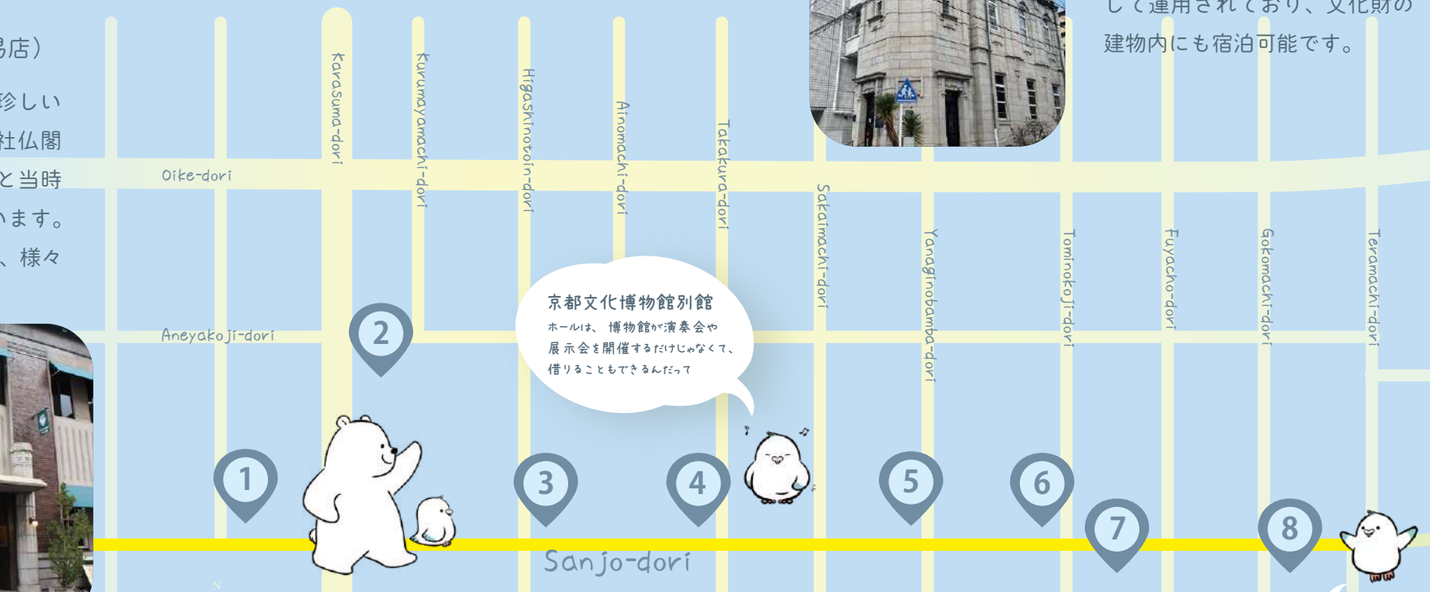
京都
レトロ喫茶とカフェ巡り

片岡れいこ 著
メイツユニバーサルコンテンツ
資料ID：668805
請求番号：596.7 || Kat

三条通モダン建築MAP

かつて東海道の西の起点とされ、京都のメインストリートとして整備された三条通。平成 9（1997）年には、寺町通から新町通まで一帯が「三条通界わい景観整備地区」に指定され、今もなお、重厚な洋風建築や伝統的な町家などが数多く残されています。散策がてら、往時の面影を探してみませんか？





1 文椿（ふみつばき）ビルヂング（旧西村貿易店）

大正 9（1920）年に建てられた、珍しい木造の洋風建築。5 mある天井は神社仏閣並みに高く、昔ながらの京都の伝統と当時の新しい文化である洋館が融合しています。戦後間もなく GHQ に接収されるなど、様々な所有者を経て平成 16（2004）年からは商業施設として、カフェやレストラン等が入居。国の有形登録文化財に指定されています。



2 新風館（旧京都中央電話局）

大正 15（1926）年に竣工し、当初は自動式電話交換施設でした。電電公社（現 NTT 西日本）の西館として使用され続け、京都市登録有形文化財第 1 号に登録。平成 13（2001）年に西側と北側面を保存・改修された後に商業施設「新風館」となり、令和 2（2020）年に再リノベーションして、ホテルや映画館も入る複合施設にリニューアルオープンしました。







3 中京郵便局（旧京都中央郵便局）

明治 35（1902）年に郵便局舎として建築された、京都市の登録有形文化財でもある現役の郵便局です。日本で最も歴史のある郵便局の一つで、公共建築百選にも選ばれました。赤煉瓦造 2 階建てによるネオ・ルネサンス様式を取り入れた外観は、外壁を残して内部を新築する「ファサード保存」の日本最初の改築例です。



4 京都文化博物館別館（旧日本銀行京都支店）

明治 39（1906）年、東京駅や日本銀行本店等を手掛けた辰野金吾と、弟子の長野宇平治による設計で建てられ、昭和 44（1969）年に国の重要文化財に指定されました。「辰野式」と呼ばれる、赤煉瓦に白い花崗岩の帯が入った外観が特徴です。銀行としては昭和 40（1965）年まで使用され、現在はカフェとなっている金庫室や、ホールとして活用される営業室等、かつての名残があちこちに感じられます。



5 TSUGU 京都三条（旧日本生命京都支店）

大正 3（1914）年に竣工、昭和 58（1983）年に改築し、現在残された象徴的な尖塔を含む柳馬場通に面した南東角部の 1 区画が、国の登録有形文化財となっています。設計は、辰野金吾が教え子である片岡安と共に開いた辰野・片岡建築事務所。平成 31（令和元・2019）年からホテルとして運用されており、文化財の建物内にも宿泊可能です。



6 SACRA ビル（旧不動貯金銀行京都支店）

大正 5（1916）年頃、地下 1 階地上 3 階の木骨煉瓦造という方法で建てられました。不動貯金銀行は「貯金王」と呼ばれた牧野元次郎が創業し、現在のりそな銀行の前身の一つである協和銀行と合併しました。現在はテナントビルとして利用されており、エントランスは大正時代の装飾が回復されています。時代の特徴が表れた貴重な銀行建築として、国の有形登録文化財になっています。

8 1928 ビル（旧毎日新聞京都支局ビル）

昭和 3 年、つまり 1928 年に建てられたので 1928 ビル。設計は「関西建築界の父」と言われる武田五一で、京都市登録有形文化財第 2 号。アール・デコ調のデザインで、最上階の星形の窓やバルコニーは当時の大阪毎日新聞の社章をアレンジしたものです。平成 10（1998）年の社屋移転後、耐震改修等を施されて文化的拠点として活用されています。







7 MARcourt（旧家邊徳（やべとく）時計店）

現存する民間洋風建築としては日本最古で、明治 23（1890）年に建築。現在は 2 階建てですが、当時は 3 階建てで時計塔が乗っていました。後方には典型的な純和風の京町家があります。市民が選ぶ文化財第 1 号であり、国の有形登録文化財でもあります。正面の 3 連アーチは支える柱がなく、明治 10 年代に流行した疑似洋風建築の影響とみられています。

（取材：榎本恭子、戸田奈緒子）



La France - une présence historique à Kyoto

フランス - 京都における歴史的な存在

京都は、日本文化に情熱を抱くフランス人を常に魅了してきました。千年の都におけるフランスの存在は歴史的なものであり、京都の景観の中に確かに根付いています。

1927年、駐日フランス大使であったポール・クローデルと、リヨンに長期滞在経験のある大阪商工会議所会頭の稲畑勝太郎氏は、フランス語を教えるため京都東部の九条山の丘に日本初のアンスティチュである関西日仏学館を創設しました。1936年には、より学生に近い左京区に新校舎が建設され、現在もそこに所在しています。建設計画の原案は、オーギュスト・ペレの弟子である建築家レーモン・メストラレによって設計され、木子七郎が設計監督を務めました。



関西日仏学館 1936 年

国の歴史的建造物に指定されている関西日仏学館は、伝統と現代性を常に共存させてきた都市・京都において、フランス文化の象徴となっています。

まもなく創立100年を迎える関西日仏学館は、年間を通じて開催される多様な催しやフランス語講座を通じて、日仏交流の促進と強化に努めてきました。

開放的で明るい空間として設計されたこの建物は、その精神を体現し、来訪者が自然に対話し、他者に心を開くことを促しています。京都の景観と調和しながらもフランスの精神を漂わせるこの場所は、今年で90周年を迎え、真の文化交流の拠点となることを使命としています。先日、フランス料理に情熱を注ぐ日本人シェフによるミシュランガイド星付きレストランが新たに併設されたことも、まさにその方向性を示すものです。ここで生まれ、育まれる学びと出会いが、日仏関係の未来への架け橋となることを願っています。

2009年には、フランス総領事館が関西日仏学館内に移転し、京都における唯一の外国公館となりました。京都におけるフランスの存在は、ヴィラ九条山（アーティスト・イン・レジデンス）、京都国際フランス学園、さらにフランス国立極東学院京都支部にも及びます。これらの存在は、京都市民にとって他に類を見ないフランスとの結びつきを可能にしています。

京都外国語大学もまた、フランス語およびフランス文化の教育、交流の深化、そして都市の国際化において重要な役割を果たしておられます。フランスは、1979年より貴学が主催されている全日本学生弁論大会や全日本学生フランス語プレゼンテーション大会に、継続的な支援を行っています。これは、若い世代が異文化理解を深め、批判的思考力や世界に向けて心を開く力を育むための貴重な機会となっています。

最後に、貴学、教職員の皆様、そして学生の皆様のフランス語およびフランス文化の学習と普及のための多大なご尽力に対し、深い敬意と心からの感謝を表します。

2026 年 2 月 27 日　京都

在京都フランス総領事
関西日仏学館館長
サンドリン ムシェ

CONSULAT GÉNÉRAL DE FRANCE À KYOTO
Liberté
Égalité
Fraternité

INSTITUT FRANÇAIS 関西日仏学館 Kansai
Liberté
Créativité
Diversité

Kyoto, le 27 février 2026

Kyoto a toujours fasciné les Français, passionnés de culture japonaise. La présence française dans la capitale millénaire est historique et ancrée dans le paysage de la ville.

En 1927, Paul Claudel, ambassadeur de France au Japon, et Katsutaro Inabata, président de la Chambre de commerce et d'industrie d'Osaka, ayant séjourné durablement à Lyon, fondent le premier institut français du Japon, pour y enseigner notre langue, sur la colline de Kujoyama, à l'est de Kyoto. En 1936, on construit un nouveau bâtiment, plus proche des étudiants, dans le quartier de Sakyo où il se trouve toujours aujourd'hui. Le projet initial est conçu par l'architecte Raymond Mestrallet, disciple d'Auguste Perret, et la supervision de la construction est assurée par Shichiro Kigo.

Classé monument historique national, l'Institut français du Kansai constitue un symbole de la culture française, dans cette ville, Kyoto, qui a constamment su faire cohabiter tradition et modernité.

Depuis bientôt cent ans, l'institut promeut et renforce les échanges franco-japonais, par le biais de cours de français et d'événements multiples et variés, organisés tout au long de l'année.

L'architecture de cet institut, conçu comme un espace ouvert et lumineux, incarne cet esprit et encourage les visiteurs à dialoguer naturellement, et à s'ouvrir aux autres. En harmonie avec le paysage de la ville tout en dégageant un esprit français, ce lieu, qui fête cette année son 90e anniversaire, a vocation à être un véritable carrefour culturel. L'installation récente d'un restaurant étoilé au guide Michelin, tenu par un chef japonais passionné de cuisine française, va tout à fait en ce sens. Nous espérons que l'apprentissage et les rencontres qui naissent ou fleurissent en ces lieux serviront de passerelles vers le futur de la relation franco-japonaise.

En 2009, le Consulat général de France s'est installé dans les locaux de l'Institut français du Kansai, devenant ainsi la seule représentation diplomatique étrangère à Kyoto. La présence française dans la ville comprend également la Villa Kujoyama (résidence d'artistes), le Lycée français international de Kyoto ainsi que le centre de l'École française d'Extrême-Orient. Ils permettent aux habitants de Kyoto un lien sans équivalent avec la France.

L'université des langues étrangères de Kyoto joue également un rôle majeur dans l'enseignement de la langue et de la culture françaises, la densification des échanges et l'internationalisation de la ville. La France lui apporte un soutien constant, notamment à l'occasion du Concours national universitaire d'exposé en français, que vous organisez depuis 1979. Il s'agit là d'une occasion précieuse pour la jeune génération d'approfondir sa compréhension des autres cultures et de développer par là son esprit critique et sa capacité à s'ouvrir au monde.

Pour conclure, je tiens à exprimer mon profond respect et ma sincère gratitude pour les efforts considérables que votre université, vos enseignants et vos étudiants déployez pour promouvoir l'apprentissage et le rayonnement de la langue et de la culture françaises.

Sandrine MOUCHET
Consule générale de France à Kyoto
Directrice de l'Institut français du Kansai

関西日仏学館「パリ祭」の様子



地阿弥 YAAMI ～往時の楼～

宮杉 浩
管理運営課長

今回の館報で特集した長楽館は東山の円山公園内にありますが、同地区を中心に近年は、インバウンド需要と高級志向の高まりにより、高級ラグジュアリーホテルの京都進出が続いています。最近では、五花街のひとつ祇園甲部に国の登録有形文化財である弥栄会館を継承した「帝国ホテル京都」が、同じく宮川町に外資系のカペラホテルズ&リゾーツの日本初進出となる「カペラ京都」が 2026 年 3 月に開業し話題となりました。

京都における格式高いホテルの代表格といえば京都ホテルと都ホテルになります。京都ホテルは 1888（明治 21）年に前身の常盤ホテルとして、都ホテルは 1900（明治 33）年に開業し、外国人を始めとして多くの人たちの京都でのひとときを支えてきました。ですが、この2つのホテルが開業した明治の時代に、来日外国人の羨望を一手に集めたホテルが東山・円山の地にあったことをご存じでしょうか。

今回は京都初のホテルとして、多くの外国人を魅了しながらも、今はなき楼となってしまった「也阿弥（やあみ）ホテル」のお話です。

也阿弥ホテルは 1881（明治 14）年、東山の地に開業しました。ホテルがあった場所は、円山公園の奥、東山中腹の高台で、すぐ北は知恩院の境内が接していました。このあたりは安養寺という時宗の寺院の敷地で、六阿弥と呼ばれた6つの塔頭寺院があり、江戸時代から旅館や料亭を営んでいました。そのうちの也阿弥を長崎出身の貿易商、井上万吉が買い取りホテル兼料亭の「也阿弥楼」として開業します。開業当初は2階建ての和風建築でしたが、当初から西洋料理も提供し、屋根の看板にも「HOTEL」と英語で表記しました。

以降、他の塔頭寺院の土地を買い取って規模を拡張し、4階建ての西洋建築棟を構えるまでになりました。そして、也阿弥ホテル開業の7年後に開業した常磐ホテルと並んで、京都を訪れた外国人の宿泊先として知られるようになりました。東山の高台に立地し、京都市内を一望できるロケーション、当時はまだ数少なかった西洋料理を提供していたことから、京都を訪れた外国人を魅了しました。ロチ『秋の日本』、シングルトン『有名作家の見た日本』をはじめ、数々の著作の文中に“Yaami”の文字を見ることができます。



写真「也阿弥ホテル」
（本学図書館所蔵）
右には増築された 4 階建ての新館、
左には料亭「左阿彌」が写っている。



安養寺の本堂前から京都市内を望む。ホテルの窓からも市内の眺めが堪能できた。

創業者井上万吉と 17 歳年下の弟、喜太郎兄弟は経営難にあった常盤ホテルを買収し、喜太郎は「京都ホテル」を開業します。当時の京都には也阿弥ホテルと京都ホテル以外、目立ったホテルはなかったことから、1900（明治 33）年に東山・蹴上にあった料亭吉水園が都ホテルとして開業するまで、兄弟で京都のホテル業界を独占していくことになります。

しかし、1899（明治 32）年 3 月 25 日、也阿弥ホテルで火災が発生し、4棟の建物のうち、2階建ての1棟以外を焼失する事態となってしまいました。ただ、幸いなことに外国人をはじめ、宿泊者に死傷者はありませんでした。

絵葉書「YAAMI HOTEL」（個人蔵）
右側奥には円山温泉（吉水温泉）の独特な三層楼も写っている。

わずかに残った1棟で営業を続けながら、再建を目指します。円山公園の借地料、再建に係る建物の設置基準の問題や都ホテル開業などホテル業界の情勢変化を受けながら、それでも新棟を建築するなどして 1902（明治 35）年に再建を果たします。ところが、1906（明治 39）年 4 月に再び火災が発生し、南館 1 棟を残して全焼しまいました。この際も死傷者は出なかったものの、その延焼により三層楼の独特な建物で人気となっていた隣接の円山温泉も焼失していまいました。その後はついに再建されることなく、也阿弥ホテルは姿を消したのです。

現在、その跡地は明治 1886（明治 19）年に開園した京都市最古の公園である円山公園の拡張計画によって整備されています。多くの人々で常に賑う名勝「祇園しだれ桜」、長楽館がある公園の中心部から離れていることもあり、静寂に包まれています。

公園の一番東の高台に位置する安養寺、長楽寺へ続く参道沿いには、当時から営業を続けている料亭左阿彌（さあみ）をはじめとして、情緒と格式に溢れた旅館や料亭が立ち並んでいます。

京都のホテル業界は、前述の通り高級ラグジュアリーホテルの相次ぐ開業をはじめ、京都ホテルは「京都ホテルオークラ」、都ホテルは「ウェスティン都ホテル京都」に変わるなど当時から大きく様変わりしました。そして也阿弥ホテルの名を知る人も決して多くはありません。もし今も也阿弥ホテルが残っていたら、東山・円山の景色は全く違ったものになっていたかもしれません。図書館で所蔵している也阿弥ホテルの写真を見るたびに、そんな思いにかられてしまいます。

京都市内中心部からも、その優美な姿を見ることができたという也阿弥ホテル。東山・円山の地にかつて多くの外国人を魅了した京都最初のホテルがあったことを、皆さんに知っていただければ幸いです。



現在も営業している料亭「左阿彌」。

Book Review

図書館の新着図書より



無理して頑張らなくても

早川書房

チェウニョン 著・古川綾子 訳

資料ID: 669178
請求番号: 929.13 || Che

この短編集は劇的な展開や奇想天外な結末があるわけではありません。日常のありふれた感情の機微を表現して、読者の心にじんわりと染み入ってきます。「無理して頑張らなくても」は、10代特有の劣等感や、なかなか言葉にできない屈折した思いがリアルに描かれています。結末は切なさを伴いますが、時間を経て自然体で、ありのままを受け入れられるようになった主人公の姿が、自分の記憶とも重なり、静かに心に寄り添ってくれます。また、「一時預かりボランティア日記」も、主人公が冷静ながらも猫との温かい関係性にうるっとくる作品です。
（秘書室 / 安達美恵）



ラテン語さんが教える

外国語上達への学習法

KADOKAWA

資料ID: 668808
請求番号: 807 || Rat

この本は著者の多言語学習の経験をもとに、外国語を効率よく身につけるための考え方や学習法を紹介した本である。読んでいて特に印象に残ったのは「正しい努力というのは、必ず報われる」ということ。効果が出ない方法で勉強するのではなく、自分に合った勉強方法をよく考え、その方向で努力すれば、必ず結果がついてくるということを著者の経験から述べている。外国語を学んでいる人にとって、この本は多くの点に共感することができる一冊だと思う。
（学生支援部 / 中谷めぐみ）



オーストリア・ウィーン世紀末アートめぐり

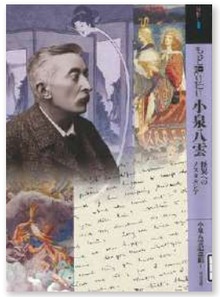
産業編集センター

鈴木幸子 著

資料ID: 669190
請求番号: 293.46 || Suz

クリムトやシーレといった画家に代表される、19世紀後半から20世紀初頭にかけて展開されたウィーン世紀末美術。本書では、こうした当地ゆかりの美術家や美術作品を軸に、芸術の街ウィーンの見所が余すところなく紹介されています。

本書は「アートめぐり」と銘打たれつつも、ウィーンの美術館や名建築から、ウィーンっ子御用達のカフェの紹介・旅のヒントにいたるまで網羅されており、オーストリアの旅行ガイドブック的内容ともなっています。豊富な図版と写真により、パラパラとめくっているだけでも優雅なウィーン旅行とアート体験の気分を味わえる事請け合いです。
（国際部 / 藤原莉子）



もっと知りたい

小泉八雲

怪異へのノスタルジア

東京美術

小泉八雲記念館 監修

資料ID: 669336
請求番号: 930.268 || Mott

本書では、雪女、耳なし芳一、ろくろ首、、日本人なら誰もが知る明治時代の文豪、小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）のギリシャ神話、ケルト文化に癒された幼少時代から、海を渡り超自然と共生する日本人の精神と出会い、怪異文学を書くに至った軌跡を辿ります。本書は豊富な写真、絵画、図版、直筆の書簡、イラスト、妻セツへの手紙等が紹介され、八雲を初めて学ぶ方に最適な入門書です。偏見を持たず、公平で常に愛あるまなざしであった八雲は、西洋化・近代化する日本に、古きよき日本の心を捨ててはいけないというメッセージを教えてくれます。
（図書館 / 島津ひろみ）



歴史のなかの奇妙な仕事

原書房

ニコラ・メラ 著・寺井杏里 訳

資料ID: 669214
請求番号: 384.3 || Mér

外科医を兼ねて手術を行う理髪師、解剖用の死体盗掘人、王のお尻拭き係に、王子の身代わりで鞭打たれる少年――。本書は、現代では耳を疑うような歴史上の奇妙な仕事の数々を紹介しています。

なぜその職が必要とされたのか、当時の社会背景を紐解くことで、名もなき人々のリアルな人生が鮮明に浮かび上がります。汚物や虫、死体等に関するグロテスクな描写には「閲覧注意」ですが、怖いもの見たさの心理もくすぐられます。「このような過酷な仕事に献身した人々が確かに存在し、各時代を支えてきたのだ」という歴史の重みを感じさせてくれる一冊です。
（図書館 / 安井梨恵）



パリの小さな日本人

ゆいぼおと

藤崎香織 著

資料ID: 668806
請求番号: 589.2 || Fuj

21歳で銀行員からファッションの仕事に転身し、日仏を往復して30年。セレクトショップのオーナーを勤める女性のエッセイです。

洗練されたファッションや、外見だけでなく内から出る美しさ、そしてパリを知ったからこそ気づいた日本の魅力など、作者がフランスの人々や文化に触れる中で感じたことが綴られ、ありのままの自分で人生を楽しむ姿を見せてくれます。

「自分らしく生きる」ことや「好きなことをして生きる」ことに憧れを抱きつつも、果たしてそれは現実にはどういうことなのか。手掛かりを求める人にヒントを与えてくれるでしょう。
（図書館 / 下出裕実花）



「かわいい」言語学

音とイメージから解明する
ネーミングのしくみ

大修館書店

熊谷学而 著

資料ID: 669183
請求番号: 801.1 || Kum

アイドルのニックネームやキャラクターの名前を「かわいい」と感じたことはありませんか？

本書では、私たちが日常の中で「かわいい」と感じるネーミングについて、なぜ「かわいい」と感じるのか、言語学の視点から解説されています。

キャッチーなタイトルながら、具体的な言語現象や実際の調査に基づいた解説がされており、言語研究の方法やその面白さを知ることができます。

さらに、日本語だけでなく英語・中国語・韓国語の「かわいい」音についても記述されているため、言語と文化に興味がある方にぜひおすすめしたい一冊です。
（2025年度博士課程前期修了生 / 飯塚のどか）



パンチラインの言語学

朝日新聞出版

川添愛 著

資料ID: 668818
請求番号: 804 || Kaw

アニメや映画など私たちが日頃から親しんでいる作品はたくさんあります。ですが、それらに登場する名ゼリフはなぜ私たちの心に深く刻まれるのでしょうか。この本ではその理由が言語学的視点から解説されています。「言語学＝理解しにくいもの」と捉えられがちですが、筆者による名作へのツッコミや楽譜を用いたリズム的解釈、そしてかなりユルめなイラストの効果もあり、雑学本を読んでいる感覚で楽しむことができます。洋画からアニメまで、あなたの好きな作品のあの名ゼリフが登場しているかも??この本を手に取り、名作に対する新しい視点を取り入れてみてはいかがでしょうか。
（英米語学科2年次生 / 佐竹十和子）

LIBRARY NEWS

2026.1-6

❶ 京都府立図書館・京都外国語大学共催稀覯書展示会

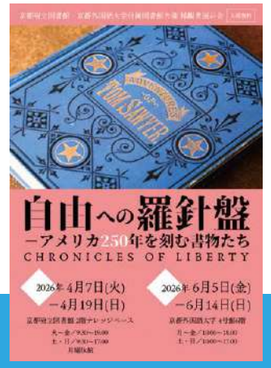
「自由への羅針盤－アメリカ250年を刻む書物たち：CHRONICLES OF LIBERTY」

本年は1776年のアメリカ独立宣言から250年にあたります。それにちなみ、6回目となる京都府立図書館との共催稀覯書展示会ではアメリカ文学に関する貴重な本や、ペリー来航などの日米交渉資料等を展示します。

また、4月11日に京都府立図書館で開催された共催講演会「アメリカの『独立宣言』からみる社会、文化、文学」において、本学の坂本季詩雄教授が講演を行い、好評を博しました。

■ 4月7日～4月19日
京都府立図書館2階ナレッジベース

■ 6月5日～6月14日
本学4号館6階





❷ ガイダンス



図書館では、皆さまの図書館利用の手助けとなるガイダンスを行っています。図書館が主催するガイダンスと、先生方の依頼に応じて授業内で行うガイダンスがあります。本を借りるだけではない、図書館の様々な活用方法を知る機会となっておりますので、是非ご利用ください。告知は、UNIPA、ホームページなどで行います。

［図書館ガイダンス］（要申込）

○書庫ガイダンス
図書館の本の大部分は、入庫手続きが必要な書庫にあります。書庫に入って、自分で本を探したい人向けのガイダンスです。

開催日　4月22日、5月20日、6月17日
時　間　13:00～13:30

○レポート・卒論等のための情報収集ガイダンス
図書館にない本の探し方や、データベースの使い方など、レポートや卒業論文執筆に役立つガイダンスです。

開催日　6月10日
時　間　14:00～15:00

○電子書籍・電子ジャーナル・オンライン新聞記事などの使い方ガイダンス
図書館で利用できる電子書籍等の使い方や、学外からアクセスする方法を説明します。ご自分のPCやスマートフォンをお持ちください。

開催日　6月17日
時　間　14:00～15:00

［授業内ガイダンス］
教員の依頼に応じて、授業内でガイダンスを行います。図書館の概要から資料の探し方や、知っていると便利な図書館サービスなど、図書館を利用するにあたって基本的な情報を説明します。

お問い合わせは、総合カウンターか kufslib@kufs.ac.jp までお願いします。

❸ 国際部主催イベント「みんなで話そう！留学前なんでもQ&A」に参加！

2026年度春学期の留学に向けて、期待と不安を抱える出発予定者の皆さんのために、国際部で活躍しているStudent Ambassador（S.A.）が、「みんなで話そう！留学前なんでもQ&A」というイベントを開催しました。

今回S.A.の皆さんからの要望を受け、イベント内では図書館職員の榎本より、海外旅行のバイブルとして親しまれている『地球の歩き方』についてのプレゼンテーションを行いました。図書館では2024年度より「ガイドブック『地球の歩き方』の魅力♡」を主催しており、これまで2年連続で国際部S.A.の学生がスピーカーとして登壇してくれたご縁もあり、今回は図書館が国際部主催のイベントへ参加する運びとなりました。



プレゼンテーションの様子



最後にみんなで記念撮影

「地球の歩き方」を留学に使用するメリットについて

留学前準備の現地事前リサーチとして、ネットやSNSなどでの情報収集が今は主流です。残念ながらガイドブックを手に取る学生は数少ないのですが、あえて『地球の歩き方』を活用するメリットについて深掘りしました。

デジタルツールだけでは見落としがちな、意外なほどの「利便性と実用性」。『地球の歩き方』を利用する最大のメリットは、必要な情報の網羅はもちろん、自分では気づけなかった予期せぬ役立つ知識まで、一冊で完結できる点にあります。点在する情報をその都度検索する手間も省け、留学生活の質を総合的に高めてくれます。

また、47年前に創刊したというガイドブックとしての長年の蓄積の中で、国別の細やかな情報にどれだけ違いがあるのかも、例を挙げて伝えました。

説明後には、イベントに参加した学生の皆さんが図書館まで『地球の歩き方』を借りに来てくださっている様子を拝見しました。今回の説明が、留学を控えている学生の皆さんのお力添えとなることを図書館からも願っています。

■ 2026年1月13日・16日



説明後に各自で「地球の歩き方」をチェック



イタリアだけで地域別の5冊の「地球の歩き方」があります

分館紹介

アジアの風 アジア関係図書館だより（9）

国際交流会館（9号館）2階

椋梨 景智
元図書館

アジア関係図書館

後藤　新平

前回、台湾の政治家「李　登輝」元総統に触れました。彼が台湾を民主化するにあたり、総統としてリーダーシップをとる「お手本」としたのが後藤新平氏でした。後藤氏は、首相にこそ手は届きませんでしたが、初代満鉄総裁、二度の内務大臣、外務大臣、東京市長等を歴任した大政治家のひとりです。李登輝元総統曰く「後藤の信仰が、どのようなものだかはわからない。ただ、彼が『天皇』と『国家』のため、という強力な信念を持っていたことはありありと伝わってくる。指導者は困難にぶつかったとき何を決断の根拠にするのか。それが信仰、あるいは信念なんだ」（早川友久『李登輝：いま本当に伝えたいこと』P.21）。この時の、「決断の根拠」には必ず、「公」の意識を捉えなければなりません。つまり、政治家であれば、国家や国民のためになるのか、企業の経営者であれば会社や社員が潤う利益を得られるのか等の「公の視点」を持つべきです。

後藤氏の思想の源流は、人間とは、生理的動機に発し生理的円満を得ようと生を紡ぐ存在であるという考えです。しかし、この生理的円満を満たすためには、個々の力を超えた、個々の人間を生存させるための社会的秩序を形成する「公の力」が不可欠です。

つまり、個々の人間は生理的動機に突き動かされて生理的円満を充足しようとするものの、個々の人間にはみずからの生理的円満を充足するための秩序を形成する力はありません。この力をもつものは国家のみであり、国家という「公の力」によって、初めて人間は生存のための空間を確保することができるということです。個々人の私的利益の追求が自己運動を重ねて最適解を導きだすといった、予定調和的な世界観とは際立って対照的な世界観です。

是非一度、後藤新平氏に関する書籍をご一読いただければ！



李登輝
いま本当に伝えたいこと

ビジネス社

早川友久 著

資料ID: 645587
請求番号: 289.211||Hay

京都国連寄託図書館

「ピース・サークル」

ピース・サークルとは、亀裂が深まり、紛争や分断が広がり、制度への信頼が失われつつある世界において、若者の力を結集して、今日の深刻化するグローバル課題に対し解決策を提示していくことを目的に結成されたサークルです。

2015 年に国連安全保障理事会決議 2250［若者・平和・安全保障］が採択されてから、10 年以上経ち、世界人口の半数である 30 歳未満の若者は、平和を築き、仲介し、教え、維持し、普及し、ボランティア活動を行い、革新しています。にもかかわらず、彼らは、意思決定や解決策の形成の場からあまりにも頻繁に排除されており、たとえ議論の場に招かれても、意見は無視されがちで、そのような実態が信頼のギャップにつながったことから、サークルが立ち上げられました。

「世界中の若者にとって、平和は抽象的な概念ではなく、自分たちの今の生活と、来るべき将来の礎となるものです。このサークルでは、若者主導の解決策を高めるとともに、日々平和の実現に向けて取り組んでいる若きリーダーたちの声に光を当てていきます」とピース・サークルの立ち上げに参加したグローバル・コミュニケーション担当のメリッサ・フレミング国連事務次長は述べています。

ピース・サークルは全世界において、若者の政治参加、紛争予防から軍縮、平和構築、気候安全保障、ジェンダー平等、教育に至るまで、若者のリードのもと、若者とともに、人間を中心に据えた、より平和で公正かつ持続可能な未来を形作るための緊急の解決策について議論されるでしょう。

国連活動を、さらに知るためにも是非、京都国連寄託図書館へお越しください。



10 学生の見た 世界の大学図書館

カナダ ノースアイランドカレッジ

Hi, guys! How's it going?　私は 2025 年度秋学期から約 1 年間、カナダのノースアイランドカレッジ（NIC）に留学しています。私が住むコモックスバレーはバンクーバー島の一部であり、自然あふれる豊かな場所です！ 夏から秋にかけては川を遡上するサーモンが見られたり、年中を通してアザラシを目にしたり出来ます。また人口が少ないため人との距離が近く、温かいコミュニティに囲まれています。このカレッジは、ビジネスや看護・デザインを始めとする学部に特化し、各国からの留学生も多く見られます。少人数クラス制で先生や現地学生との交流の機会が頻繁にあり、刺激的な日常を過ごしています。

図書館はキャンパス内の建物の一部に併設されていて、どことなく懐かしさを感じる図書室の様な所です。本の数はそれほど多くなく、規模は小さいですが、授業や課題に役立つものが揃っています。貸出数は 1 人最大 20 冊、期間は 3 週間となっています。学生証があれば簡単に借りることが可能で、返却期限等は自身の図書館アカウントからも確認できます。開館時間は平日 8 時から 18 時となっています。

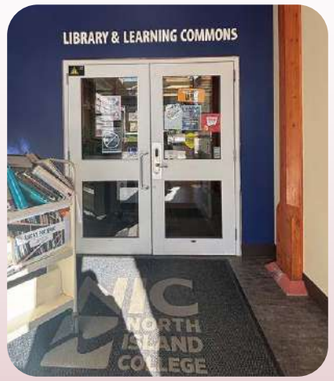
また学習サポートやスペースも充実しています。特に Writing Support は魅力的だと思います。これは一対一でエッセイ等の課題のアドバイスをもらえるもので、予約を取ることで参加することができます。対面かオンラインかを選べるのも良い点です。他にも APA style（引用方法）を教えるワークショップ、学生同士で専門分野について支援し合うものもあります。更に自主学習ができる部屋が準備されており、予約をすることで個人でもグループでも使用が可能です。ここまで手厚い学習サポートは中々無いと思うので是非有効活用してください！部屋だけでなく普通に学習できるテーブルもあるので、私はよく授業終わりに行って課題をしたり、テスト勉強したりしています。多くの学生がそれぞれ集中して勉強に取り組んでいるのでモチベーションにもなります。



いかがでしたでしょうか？ 参考になれば幸いです。図書館としての役割はもちろんのこと、学生への学習支援が整っていて本当に助かっています。世界にはまだまだ沢山の図書館があります。様々な国を訪れ、それぞれの雰囲気を感じてみたいですね。皆さんが素敵な図書館と出会えますように！



早田弥生
英米語学科 3 年次生







英語多読プログラムの現在地
ー 実践と工夫 ー

笠巻知子
講師・英語教育学、第二言語習得

吉田真美
教授・英語教育学、第二言語習得

多読とは

外国語学習における多読とは、「平易な外国語で書かれたテキストを大量に読むこと」と定義されています（Day & Bramford, 1998）。多読では、「辞書は引かず、分からない単語は飛ばす」「おもしろくなければ本を変える」「７割程度の理解を目指す」という三つの原則を大切にしています。多読は、語彙力や読解力を高めるだけでなく、英語の処理速度を上げるため、リスニング力の向上にもつながることが研究で示されています。また、文法力やライティング、スピーキングなどの発信能力の向上にも効果があると報告されています。

京都外国語大学の英語多読プログラムについて

英米語学科とキャリア英語科、そして第二外国語として英語を学ぶ授業で、英語多読を必修科目の中に導入しています。本英語多読プログラムでは、電子書籍と図書館の紙の本を利用しながら多読に取り組みます。英米語学科では４学期間（クラスによっては６学期）、キャリア英語課では授業の中で３学期間、多読活動を行います *1。

コロナ禍以降、本学の多読プログラムでは電子書籍を中心に活動を行ってきましたが、2025 年度から方針を大きく変更しました。これまでは、電子書籍を読んでクイズに答えると語数が記録される Xreading というプラットフォームを全員が利用し、指定された語数を読む仕組みになっていました。しかしながら、2025 年度入学者からは、クイズによる語数管理を廃止し、学生の自主性を重視した多読へと転換しました。また、紙の書籍の積極的な利用を促すために、１年生の春学期は図書館の本のみを使って多読を実施しました。

紙の本には、内容が記憶に残りやすいことや達成感を得やすいことなど、さまざまな長所があります。一方で、電子書籍には利便性が高く、音声などの補助機能を利用できるという利点があります。本プログラムでは、こうしたそれぞれの特徴を生かしながら、紙の本と電子書籍の両方を組み合わせた効果的な多読の方法を探っています。

促進活動

多読研究グループ *2 では、学生の多読を奨励するため、これまでさまざまな取り組みを行ってきました。今年度は、学生が多読本を手に取りやすく、継続しやすい環境づくりを目指し、いくつかの促進活動を行いました。

テーマ別ブックディスプレイ



展示の様子

図書館第五閲覧室（6 号館 1 階）では、季節や話題に合わせた本を陳列し、テーマ展示を行いました。春は「動物」、夏は「スポーツと海」、秋は「ハロウィーン」、冬は「クリスマス」といったようにテーマを設定し、関連する図書をレベル別にまとめて紹介しました。テーマ別読書とは、同じテーマに沿って複数の本を読むことで、語彙や内容理解を自然に深めていく読書方法です。本展示を通して、学生が興味のあるテーマから本を手に取りやすくし、関連する本を続けて読む流れをつくることで、無理なく読書を続けられるよう工夫しました。

多読本を教室に持参できる「Book Set」



Book Set

一つのテーマに関する本を異なるレベルで構成した「Book Set」を作成し、教員向けに準備しました。教員が授業に持参することで、授業内で theme-based reading（テーマ別読書）を実践できるようにすることを目的としています。これにより、「何を読んだらよいかわからない」という学生に対して読みやすい流れを提供し、継続的な読書につながっています。

Reading BINGO

読書をより楽しくするために、「Reading BINGO」を実施しました。テーマ展示と連動させ、季節ごとに陳列した本の中から 9 冊読むとビンゴとなる形式とし、学生が興味のあるテーマに沿って読書を進められるよう工夫しました。また、シリーズの読破にも挑戦できるよう、シリーズごとの BINGO シートも用意しました。達成した学生には賞品を用意し、ゲーム感覚で楽しみながら読書の幅を広げることにつながった様子が見られました。



学生が書いたビンゴシート

多読の成果と効果について

多読の効果について、これまでのデータから、多読の量が TOEIC の伸びに関係しているという結果が報告されています。特に簡単な本で始めて大量に読んだ方が効果があるとされています。今年度の１年生を対象に１学期終了時に行った多読に関するアンケートからは、表の通り多くの肯定的な意見が寄せられました。

また、今年度、多読成績優秀者が 1月14 日に表彰されました（72 名の表彰者の内訳は英米語学科 47 名（1 年次生 34名、2年次生 11 名、3年次生 2名）、短期大学キャリア英語科 8 名（1 年次生 2 名、2 年次生 6 名）、英語以外の言語を専攻する学生 5 名でした。多読成績優秀者へのアンケートで「多読に積極的に取り組めた要因」を尋ねたところ、１年生では「英語力をつけたい」「興味が湧いた」「習慣化した」などの回答が多く見られ、一方、語数目標が設定されている 2 年生以上では、「仲間からの刺激や励まし」や「多読の効果を実感した」といった回答が多く見られました。これらの結果から、多読指導の方針や学習環境が、学生の学習動機にも影響していることが示唆されます。

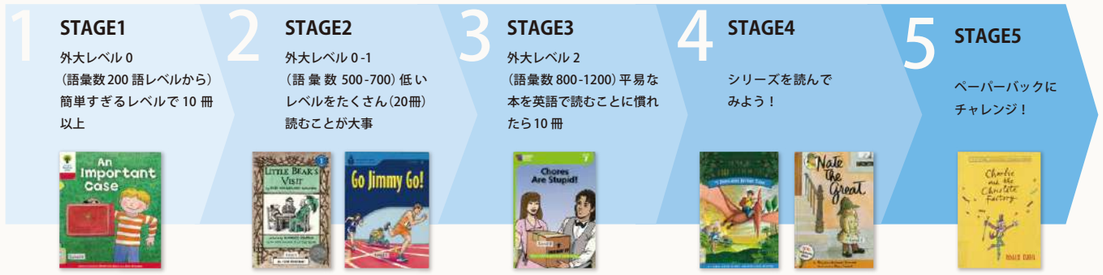
春学期終了後多読に関して寄せられた感想

語学力の向上（読むスピード、直読直解、語彙の増加など）があった	48 件
多読の意義を理解できた	27 件
多読するのは楽しかった	21 件
本を読了したり、色んな知識が増えることが有意義な体験であった	20 件
もっと頑張りたいと思う	10 件
読書習慣がついた	5 件
困難さ（図書館での貸し出しや課題量）	23 件

注：回答数合計 150 件

多読の進め方

多読では、日本語を介さずに英文を理解できる読解力の育成を目指します。そのため、以下のフローチャートのように、開始時はやさしい本を多く読み、徐々にレベルの高いものや長い物語へと段階的に取り組むことを推奨しています。



筆者からのメッセージ

多読は、本を通してさまざまな世界や人々、文化に出会えることも魅力の一つといえるでしょう。言葉にとらわれず物語に浸る―その楽しさが、読むことを続けさせてくれます。また、多読は漢方薬のようにじわじわと効く学びで、即効性はありません。しかし、続けることで確かな力となり、英語との距離をぐっと近づけてくれます。さあ、英語で読む楽しさに出会ってみませんか。あなたのペースで、英語読書の世界へ一歩踏み出してみてください。

引用文献：Day, R., & Bamford, J. (1998). *Extensive reading in the second language classroom*.

注：
＊1 今回は外国語学部と短期大学の英語多読プログラムについて説明する。国際貢献学部のカリキュラムでは異なる形態で多読が実施されている。
＊2 多読研究グループは、京都外国語大学教育メソッド・教育コンテンツ研究教育研究費の助成を受けて、英米語学科、フランス語学科、スペイン語学科、ロシア語学科、イタリア語学科のメンバーから構成されている。

他者を生きる　ポルトガル文学の翻訳

上田寿美
講師・ポルトガル文学

ポルトガル文学、と聞いてピンとくる人はそう多くはないだろう。世界文学のなかでは、どうしても〝マイナー〟の側に置かれてしまいがちだ。しかし、ポルトガル文学の歴史は深い。12世紀のガリシアポルトガル抒情詩における恋の歌に始まり、海の果てを目指した大航海時代のポルトガルを謳い上げたルイス・デ・カモンイスの叙事詩『ウズ・ルジアダス』が国民的神話を築き、フェルナンド・ペソアは20世紀文学の常識を根底から覆した。それなのに、どうしてそれほど知られた存在ではないのだろう。おそらくそれにはポルトガルという国の歩んできた歴史が深く関わっている。世界に先駆けて海へと漕ぎ出し、広大な植民地帝国を築き上げたのは15世紀から16世紀初頭にかけてのこと。だがカモンイスが『ウズ・ルジアダス』を記した16世紀後半には、すでにその栄光に翳りが見えていた。奇しくもカモンイスの没した1580年、ポルトガルはスペイン王権のもとに組み込まれ、衰退の時代へと入っていく。王政復古を遂げた後も、ポルトガルは植民地からの富とその喪失に揺れながら、盛衰の波を静かに生き延びてきた。そうした歴史的背景から、ポルトガルはヨーロッパの周縁に位置する国という印象を、どこか拭いきれないまま今日まで至っている。

日本におけるポルトガル文学の翻訳は、1990年代ごろまではきわめて限られたものだった。日本と縁の深いヴェンセスラウ・デ・モラエスの作品などはある程度紹介されてきたものの、ポルトガル文学としてはごくわずかにとどまっていた。その状況を大きく変えたのが、1998年にノーベル文学賞を受賞したジョゼ・サラマーゴの登場である。以後、少しずつ彼の作品が日本語へと翻訳され始めるようになった。

さらに2019年には、ジョゼ・ルイス・ペイショットの『ガルヴェイアスの犬』（木下眞穂訳、新潮社、2018年）が第5回日本翻訳大賞を受賞し、現代ポルトガル文学の翻訳に新たな流れが生まれた。その勢いに乗って、ポルトガル大使館監修による「現代ポルトガル文学選集」（現代企画室、2019年）が誕生し、このシリーズの第三弾として、拙訳によるドゥルセ・マリア・カルドーゾの『帰還』（現代企画室、2025年）が昨年11月に刊行された。

小説『帰還』は、1974年4月のポルトガルにおけるカーネーション革命をきっかけに、アフリカの旧植民地アンゴラから帰還した人々の姿を描いた作品だ。主人公は15歳の少年ルイ。彼の視点による一人称の語りで物語は進んでいく。さて、この一人称の語り、実は翻訳するのにはやや厄介な代物だった。というのも、登場人物の全てのセリフがルイの言葉として語りの中に溶け込んでおり、ポルトガル語なら通常ハイフンでセリフが挿入され、日本語ではさしずめ鉤括弧でセリフが区切られるはずの発話が一切区別されていない。読んでいると誰の言葉なのか判別しにくい場面が少なくないのである。そのため、日本語訳には「〜、と母さんは言う」など、ポルトガル語には書かれてない表現を適宜足すことで、誰のセリフかわかるよう工夫する必要があった。とはいえ、この文体をあえて用いた作者の原文のリズムや雰囲気も極力残したい。そのバランスがなかなか難しい。



ポルトガル短篇小説傑作選
よみがえるルーススの声

ルイ・ズィンク、黒澤直俊 編
上田寿美（ほか）訳

現代企画室

資料ID：639262
請求番号：969.3 || Poru

また文芸翻訳の場合、原語にはない問題に頭を悩まされることがある。その一つがいわゆる役割語である。例えばポルトガル語の一人称は基本的にeuで足りるが、日本語には私、俺、わし、僕、わたくし、など年齢、職業、性別、社会階層などに応じて多様な形が存在する。そのため、小説を訳し始める前に、それぞれの登場人物の年齢や性別、さらには性格までもある程度自分の中で定めておく必要がある。頭の中で登場人物たちにその役を演じてもらうのだ。この小説で最後までキャラクターづけに迷ったのが、ルイの母親だった。彼女はポルトガル北部の水道もないような寒村からアンゴラへと嫁いだ人だ。一方で、都会の洗練された暮らしへの憧れも抱いている。そのため、いかにも「田舎のお母ちゃん」といった語り口にはしなかった。後から思えば、もう少し田舎くささを滲ませてもよかったのかもしれない。

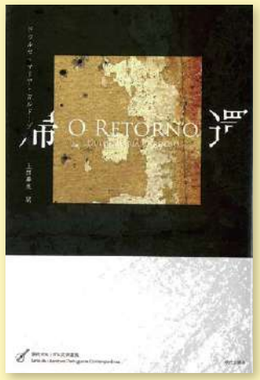
もう一つは罵り言葉である。元々日本語には罵り言葉が少ない。これに気づいたのは、学生時代にポルトガルへ留学していた頃だ。ポルトガル人の友人と互いの言語表現を教え合っていた時に、「日本語では〜は何と言うの？」（〜の部分はご想像にお任せする）と聞かれた。しかしどう考えみても、それに相当する言葉が見つからない。ポルトガル語をそのまま日本語に訳してみても、少しも罵られているように聞こえないどころか、言っている側がむしろ変な人になりかねない。それでも「日本語ではそういう表現は使わない」と説明するも、なかなか信じてもらえない。他のヨーロッパ系の言語には多くの場合、よく似た表現があるからだ。こうした差異は、まさに文化の違いといえるだろう。

さて、小説『帰還』では、黒人武装集団の使う罵り言葉、そしてルイが本国ポルトガル人に対して使う罵り言葉についても、それぞれの立場や背景の違いを反映させる必要があった。

そもそも日本語に罵り言葉の語彙が少ないうえに、関西人である私の頭に浮かぶのは、どうしても関西弁での罵り言葉だ。例えば映画で、関東弁での激しい罵りが飛び交う場面を見ても、関西人の私にはさほど恐ろしくは響かない。また、自分自身が関東弁で罵る（そのような機会はまずないと思うが）となると、咄嗟に言葉が出てこないだろう。罵り言葉のような感情的な言葉は、使い手が育った文化的背景の奥深い部分から湧き上がってくるものなのだ。そんなわけで、罵り言葉の訳出にはとりわけ苦労させられた。ときに自分にあまり馴染みのない言い回しを用いて工夫しなければならないこともある。そう考えると、訳者とはある意味役者であり、その人物になり切ることが求められるのだ。

フェルナンド・ペソアは異名を用いて、本名とは異なる別人格の詩人をいくつも作り上げた。そうした詩人たちを、あたかも実在する人物であるかのように現実世界の舞台へと送り出し、虚構と現実のうちに壮大な演劇空間を創り上げたのである。文芸翻訳にもどこかそれに通じるところがあるように思う。

果たして私は、うまく演じ切れただろうか。



帰還

ドゥルセ・マリア・カルドーゾ 著
上田寿美 訳

現代企画室

資料ID：669729
請求番号：969.3 || Kar



LIBRARY SEEKERS NEWS from L.E.M.

L.E.M. (Library Explore Mission) とは？



京都外大図書館の中で、日々図書館の可能性を探求し、より自由で魅力的な図書館を作ることを目的とした学生グループです。毎週１回のミーティングで、企画を立てたりイベント準備をする以外に、L.E.M. 独自のミニブックトークも行っています。

Instagram フォローしてください！

L.E.M. メンバーになりたい方は
メールでご連絡ください。
連絡先：付属図書館
email: lem@kufs.ac.jp



L.E.M.は昨年度から京都市内の魅力ある本屋さんを取材し、本屋さんMAPを作成する取り組みを始めました！
第４回目として「大垣書店 堀川新文化ビルヂング店」を紹介します。

大垣書店　堀川新文化ビルヂング店

堀川新文化ビルヂング店の歴史や創業の経緯を教えてください

2021年の11月にオープンし、今年で５周年を迎えます。

それまでこの地域にはあまり本屋がなく、弊社が出店させていただく運びになりました。街の雰囲気にあった良い本屋だと、近隣にお住まいの方からも好評でよくご利用いただいております。京都ではありますが、観光客や外国からお越しのお客様は１日に数組といったところで、他店舗に比べると少ない印象です。



カフェ「Slow Page」

お店のコンセプトやこだわりを教えてください

堀川周辺にお住まいの皆様の、文化の拠点となるような書店をコンセプトにしています。

店の内装にはじまり、アーティストの方から直接仕入れている雑貨や、芸術性のある書籍を一面に展開するなど、大垣書店の支店の中では「ちょっとぼくない」ところも個性の一つだと思っています。本屋の中に印刷工房（昌幸堂）があり、絵本や葉書、レターセットが作れる本屋であることもそうです。また、そこで作った本を２階ギャラリーで発表できるような、導線がある事で独自性が生まれていると考えています。もちろん普段使いもしていただけるように、書店として必要な商品を揃えることも大切にしています。



カフェやギャラリーが同じ施設内にある影響について教えてください

立ち寄られたお客様で館内が循環することだと思います。

例えば、今年の２月14日から３月15日まで１ヶ月間、イラストレーター・中村佑介さんの作品展を２階ギャラリーで開催していました。２階で作品をご覧になり、１階書店で中村佑介さんの愛読書をご購入し、カフェでコラボメニューをご賞味くださるというお客様が大勢いらっしゃいました。創業以来一番忙しかったですね。１つのイベントでも、館内で様々な楽しみ方ができる事が強みだと思っています。



ギャラリー「NEUTRAL」

お店を経営する中で印象に残った出来事はなんですか

アルバイトのご応募をたくさんいただいたことです。

春の卒業シーズンに備えて、１月頃にアルバイトさんの募集をしました。駅からも離れており、アクセスがいいとは言い難い立地にも関わらず、予想に反した数のご応募をいただき、驚きました。特に雰囲気の良さを理由に応募していただいた方が多く、それほど魅力的な店舗なんだと感じ、働いている身として非常に嬉しく思いました。

京都外国語大学生におすすめの本はありますか

大田ステファニー歓人著『みどりいせき』（集英社文庫）を読んでいただきたいと思います。

第37回三島由紀夫賞、第47回すばる文学賞を受賞した著者のデビュー作です。間違いなく日本語で書かれてはいるのですが、「本を読んでいる」感覚にはならない不思議な作品です。頭の中でビートが勝手に生成され、心地よいフローの中にいる気分になるのです。リズミカルな文章、言語の紡ぎ方、どこかに似た言語があったりするのでしょうか。外国語大学ということで、普段他言語を学ばれている皆様がどういった印象を受けるのか、すごく気になります。

インターネットの普及によるお客様の読書の仕方の変化を感じることはありますか

紙で読むのか、電子で読むのか、そういった選択肢が広がったのかな、くらいの感触です。

ネットの情報を入り口に本を手に取ってくださるお客様を多く見かけますので、書店としてはネットの普及により助かっている部分もあります。私ごとで恐縮ですが、本を買うときはいわゆる「ジャケ買い」をすることが多い一方で、より良い作品に出会うために SNS の口コミもチェックします。そんな時はやっぱりネットって便利だなと実感します。ネタバレや海賊版、電子書籍の手軽さなど不安要素もありますが、それらも含めて「物は使いよう」であり、活用の仕方次第だと考えています。

出版業界全体を見ると、市場規模は１兆５千万円のうち、６割が紙媒体、４割が電子書籍となっています。電子書籍の成長率はここ数年横ばい状態だと言われており、まだ紙媒体の需要の方が優勢ではあります。今後も、持ちつ持たれつの関係が続くのだと考えています。

今後の目標を教えてください

社是にありますように「地域に必要とされる書店でありつづける」ことです。周辺に書店がないので、堀川・西陣一帯にお住まいの方が今後も気軽にご利用いただけるよう、尽力していきます。

まだ訪れたことのない方へ一言お願いします

カフェを併設しておりますので、本屋としてはもちろん、勉強や作業にもうってつけです。京都外国語大学からは少し離れておりますが、ぜひ足を伸ばしていただけたら嬉しいです。

取材を終えて

急なお願いにも関わらず、取材に快く応じてくださった大垣書店様に感謝いたします。取材時は、平日にもかかわらず書店も、併設されているカフェもたくさんのお客様が利用されていました。書店は普段本を買うために利用しますが、堀川新文化ビルヂングなら同時に様々な体験ができるので、個人的にまた利用させていただきます。記事を読んで興味を持っていただけたら、ぜひ一度訪問してみてください。行ってよかったと必ず思えるお店です。

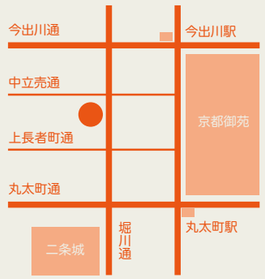
（取材：英米語学科４年次生／渡邊伊織）



取材を受けてくださった店長の渡邊さん

大垣書店　堀川新文化ビルヂング店

〒602-8242
京都府京都市上京区皀莢町 287



寄贈図書

本学理事　浜中秀一郎氏より

『史料で読む日本の金融 II』

浜中秀一郎 著

金融財政事情研究会

井上史氏より

『頼もしき隣人能勢克男
　反ファシズム統一戦線派のあしあと』

井上史 著

ヘウレーカ

藤田和孝氏より

『商取引規範と取引慣行
　国際商取引規範への組込みが困難な取引慣行の序論的研究試論』

藤田和孝 著

中央経済社

古川修氏より

『京都学基礎論』 全５冊

古川修 著

中院出版

細井忠俊氏より

『『女工哀史』から百年
　今も、和喜蔵の声が聞こえる - 細井和喜蔵没後百年記念誌』

細井和喜蔵没後百年記念事業実行委員会 編

細井和喜蔵没後百年記念事業実行委員会

吉田和彦氏より

『言葉の歴史を復元する フィールドと文献からのアプローチ』

吉田和彦 編

松香堂書店

他１冊

本学元教員　黒岩幸子氏より

『北方領土を知るための 63 章』

名越健郎［ほか］編著 / 吉岡明子 編集協力

明石書店



ー本学教員の最新著作物ー

牛島万　スペイン語学科教授より

『メキシコのナポレオン サンタ・アナの時代
　米墨戦争を戦い抜いた首領』

牛島万 著

明石書店

岡本信照　スペイン語学科教授より

『『ドン・キホーテ』とともに』

京都セルバンテス懇話会 編

行路社

苗茨　中国語学科教授より

『漢字文化大観』 上下巻

何九盈、胡双宝、張猛 監修 / 杉村博文 監訳

ゆまに書房

布施将夫　キャリア英語科教授より

『アメリカが創る世界、世界が創るアメリカ
　アメリカ史の新地平』

中野耕太郎、小野沢透、藤岡真樹 編

昭和堂

杉山雅樹　共通教育機構准教授より

『*Persian world histories in the Mongol era*
　The transmission and reception of Rashid al-Din's Jamiʿ al-Tawarikh』

edited by Tomoko Masuya, Osamu Otsuka, Masatomo Kawamoto

Edinburgh University Press

衛藤圭一　キャリア英語科准教授より

『メディアの中の女性：文学、歴史、言語の世界』

坂本季詩雄、布施将夫、北尾泰幸、林姿穂 編著

開文社出版



ラフカディオ・ハーンが愛した妻

小泉セツの生涯

櫻庭由紀子 著

内外出版社

資料ID：668496
請求番号：930.268 || Sak



稲垣 宏行
図書館

ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）をモチーフにしたNHK 連続テレビ小説「ばけばけ」が好評を博しました。本学図書館でも近年、ハーン関連の図書が増えています。

そのハーンのよき理解者であったセツ（節子）は、どのような人物であったのでしょうか。本書はセツの生涯を中心に、その夫となるハーンが日本に来るまでの経緯から夫婦生活、執筆活動などでの、彼らの心理を克明に描いています。

セツが島根県松江で武家の娘として生を享けた時、日本は江戸時代から明治時代に転換していました。武士の特権は失われ、やむなく彼らが不慣れな商売を始めた結果、大半が失敗して零落していきました。セツの養子先の稲垣家、そして実家の小泉家も同じ運命を辿り、彼女ほぼ１人で双方の家族を養うことを余儀なくされました。小学校も中退せざるをえず、極貧生活に喘ぐ彼女の所に現れたのがハーンでした。

ハーンはアイルランド育ちでしたが、母親はギリシャ人でした。しかしその母は彼が幼い頃、異国での不慣れな生活から精神を病み、それが元で引き離されました。その後の学生時代には事故で左目を失明しました。自身が純血のヨーロッパ人でないこと、幼くして母を失った体験、事故で容貌を損ねたことなどは、ハーンの性格と価値観に大きな影響を与えました。彼は欧米の価値観や近代化の風潮を厭い、非白人や彼らが守ってきた文化に同情や共感を寄せるようになったのです。そんなハーンが日本を訪れる契機となったのは、東京帝国大学（現・東京大学）教授のバジル・ホール・チェンバレンが英訳した『古事記』を読んだからです。セツとの邂逅は、彼女の故郷松江で英語教師を依頼されたこともそうですが、同地の厳寒から風邪に倒れ看護する人が必要になったからだといわれています。

セツとハーンを深く結びつけたのは、２人が幼少期から愛好してきた「物語」でした。セツは故郷に伝わる民話や伝承が、ハーンはギリシャ神話やケルト神話が好きでした。しかし明治の日本では「荒唐無稽な昔話や伝承は近代化にふさわしくない」と否定される傾向にあり、一神教のキリスト教である欧米も、ギリシャなど多神教の国や文化には不寛容で、有色人種も差別されていました。特に当時の日本では、現代でいう「国際結婚」が忌避されており、外国人と結婚した日本人女性を「ラシャメン（外国人の妾）」と呼んで差別していました。そしてハーン自身、不遇な生い立ちから被害妄想が強く、極度に潔癖で偏屈な人物であったため、夫婦生活での苦労も少なくありませんでした。ハーンは「古き良き日本」を理想化し、電話や電灯、ガスを「近代化の象徴」と嫌っていました。また、彼の著作を理解したくて英語を学ぼうとするセツを厳しく制したといいます。それは本書によると、セツが英語を習得することで、彼女が白人女性のような自己主張の強い女性に変貌し、日本人女性らしいつつましさが崩れることを恐れたからだそうです。

それでも、セツとハーンの夫婦生活は生涯にわたって続きました。ハーンが地域の民話や伝承を『雪女』や『骨董』などの「再話文学」として世に出せたのも、セツが方々の古書店や新聞雑誌、またその地域の人々からの聞き込みなどで彼に題材を提供してきたからです。左目を失明し右目の視力も良くなかったハーンは聴覚に優れ、自分が耳にする「音」を大事に考えていたといいます。例えば代表作『耳なし芳一』では、平家の亡霊が芳一の名を三度呼ぶ場面がありますが、一度目は重々しく、二度目は恐ろしく、三度目は荒々しくと、文章だけでは表せない「音」の響きを大切にしていたのです。

本書には、セツがハーンの執筆作業のため、箪笥の開閉の音にまで気を遣ったという、連続テレビ小説にも登場した逸話もいくつか登場しています。番組をよくご存じの方も、本書を手に取り、セツとハーンの「世界観」を改めて確認されるのも良いでしょう。

世界のほんの話 05

多面性を持つ魂と言葉の世界

フェルナンド・ペソアとその普遍性

ペドロ・アイレス
教授・ポルトガル語学・文学



フェルナンド・ペソア（Fernando Pessoa）は、ポルトガル文学を代表する人物であり、20 世紀を代表する詩人の一人である。1888 年にリスボンで生まれ、王政の崩壊（1910 年）、第一共和政の不安定な時代、そして芸術と文学の刷新を目指すモダニズム運動の台頭という、ポルトガルにおける大きな政治的・文化的変動の時代に生きた。

このような時代背景の中で、ペソアはポルトガルにおけるモダニズムの導入に積極的に関わり、1915 年に創刊された雑誌『オルフェウ』（Orpheu）を通じて、伝統的な文学様式を打ち破り、新たな美的感覚を提示した。それは、20 世紀初頭のヨーロッパにおけるモダニズムや未来派といった新しい文学・芸術運動の最前線に位置する、まさに革命的な試みであった。

彼の作品の最も独創的な特徴の一つは、「異名」（エテロニム）の創造である。これは、それぞれが独自の人格、経歴、文体を持つ架空の作家である。代表的な異名として、自然と結びついた素朴な詩を詠む「師」とされるアルベルト・カエイロ（Alberto Caeiro）、古典的でストア派的な詩風を持つリカルド・レイス（Ricardo Reis）、そして近代性を称揚し感覚主義に特徴づけられるアルヴァロ・デ・カンポス（Álvaro de Campos）が挙げられる。これらの異名を通して、ペソアは多様な視点から世界と存在を探究した。

ポルトガルの歴史的運命への関心に見られるように、彼は非常にポルトガル的な詩人である一方で、同時に普遍的な詩人でもある。自己の分裂、アイデンティティ、人生の意味、形而上学的な不安といった主題は国境を越え、世界中の読者に響き続けている。その影響はポルトガル語圏を超え、イタリアの作家アントニオ・タブッキ（Antonio Tabucchi）をはじめ、多くの作家に影響を与えた。タブッキによる作品で、ペソアの最期の日々を描いた『フェルナンド・ペソア最後の三日間』（青土社、1997 年）も日本語で読むことができる。

生前に出版された作品は多くなかったが、1935 年の死後、その膨大な遺稿が整理・出版された。主な著作としては、生前にポルトガル語で出版された唯一の作品である『メンサージェン』（Mensagem）、半異名ベルナルド・ソアレス（Bernardo Soares）による『不安の書』（Livro do Desassossego）、さらに『アルヴァロ・デ・カンポスの詩』（Poemas de Álvaro de Campos）や『リカルド・レイスの頌歌』（Odes de Ricardo Reis）などの詩集がある。

このように、フェルナンド・ペソアは、深くポルトガルに根ざしながらも同時に普遍的な存在であり、その作品は今日に至るまで世界文学に大きな影響を与え続けている。

日本においても、ペソアの作品は徐々に翻訳・研究が進められている。Livro do Desassossego の邦訳『不安の書』をはじめ、本名、異名による詩を収めた詩集などが出版されている。なかでも、本学でも非常勤講師を務められた池上岑夫先生訳の詩選集『ポルトガルの海』（彩流社、1985 年）は、ペソア作品の紹介に大きく寄与したと考える。これらの翻訳を通じて、日本の読者もその複雑で深い文学世界に触れることが可能となり、彼の普遍的詩人としての地位が改めて示されている。さらに、異名リカルド・レイスの名は、1998 年にノーベル文学賞を受賞した作家ジョゼ・サラマーゴの小説『リカルド・レイスの死の年』（彩流社、2002 年）の邦訳を通じても、日本で知られている。より最近では、澤田直による『フェルナンド・ペソア伝　異名者たちの迷路』（集英社、2023 年）が特筆されるべき著作であり、第 75 回読売文学賞（評論・伝記部門）を受賞している。

フェルナンド・ペソアは、私個人にとって最も強い影響を受けた詩人の一人であり、その作品には今もなお深い感銘を覚える。とりわけ、日本でのポルトガル語教育に携わる自身の歩みにおいても、大きなインスピレーションの源となっている。そして、近年次々と発表されているペソアの詩の新訳によって、日本の読者もまた、このポルトガルの詩人による卓越した詩の魅力を味わうことができるようになることを願っている。

館長のひとりごと vol.1

「偽の友達」には要注意

-「図書館」の語源 -

舟杉真一
図書館長
教授・フランス語学

「図書館」という語の成り立ちは、次のように言われている。

中国語由来の語「図」＝図画・図面・記録、「書」＝書物、これらを組み合わせた「図書」＝書物・文献の総称は古くから漢語として存在し、日本でも「図書寮」「図書頭（ずしょのかみ）」など、宮内省の文献管理機関の名称に使われていた。明治期に西洋の library の概念を翻訳する際、既存の「図書」という語に、建物・施設を表す語「館」を組み合わせて「図書館」が定着した。「図書館」は、和製漢語であり、文字通り「書物を集め、保管し、利用させる建物」である。

京都外国語大学で学べる外国語で「図書館」は以下の通りとなる。

英語 library
スペイン語 biblioteca
フランス語 bibliothèque
ドイツ語 Bibliothek
ポルトガル語 biblioteca
中国語 图书馆 [túshūguǎn]
日本語 図書館
イタリア語 biblioteca
ロシア語 Библиотека

アラビア語 المكتبة [maktaba]
インドネシア語 perpustakaan
オランダ語 bibliotheek
韓国語 도서관 [doseogwan]
ギリシア語 βιβλιοθήκη
スワヒリ語 maktaba
タイ語 ห้องสมุด [hong samut]
トルコ語 kütüphane
ヒンディー語 पुस्तकाल [pustakalaya]
ベトナム語 thư viện
ラテン語 bibliothēca

スワヒリ語は、東アフリカ沿岸でアラビア語と長く接触してきたため、宗教・行政・教育・商業に関する語彙の多くがアラビア語由来であり、このmaktabaも「書く場所」「書物の場所」が転じて「図書館、書庫、書店」を意味するアラビア語起源の語である。

インドネシア語の perpustakaan は「～に関する場所・制度・集合体」を表す per- … -anにサンスクリット語由来の pustaka「書物・文献」が合成され、書物に関する場所→図書館、文献の集まる場所→書庫、となったものである。

ヒンディー語の पुस्तकालय [pustakālay] も、サンスクリット語由来のपुस्तक [pustaka]「書物・文献」と、同じくサンスクリット語 आलय [ālaya]「～のある場所」「～の集まるところ」が合成したものである。

タイ語のห้องสมุด [hong samut] は、ห้อง [hɔng]「部屋」「室」と สมุด [sà-mùt]「ノート」「帳面」「本」が合成し、ห้องสมุด「本の部屋」→図書館となった。

トルコ語の kütüphane は、「書物」を意味する借用語として定着しているアラビア語 كتب [kutub]「本・書物（複数形）」とペルシア語 خانه [khāne]「家・建物」に由来する。

ベトナム語 thư viện の語源は、漢語書院で、「書物・文書」の意の thư (書) と「建物・機関・庁舎」の意の viện (院) からなるものである。

着目したいのは、英語以外のゲルマン語系統、ラテン語から派生した口マンス諸語系統、ロシア語、ギリシア語はすべてbiblio-から始まる語であり、英語だけが例外となっている。

なぜ英語だけ biblio- ではなく libr- なのか。

biblio- 系はギリシア語 βιβλιοθήκη [bibliothēkē]（本＋置き場）に由来する。一方、英語 library は、ラテン語 librarium（本箱）が中期フランス語librarie を経由して入った。当時のフランス語librarieには「図書館」の意味もあり、英語はその語を借用し今日に至っている。中期フランス語では、librarieとlibrairieが併存し、やがてlibrairieが優勢となり意味も「書店」に特化し、図書館はbibliothèque に置き換わったのである。

英語のlibrary「図書館」とフランス語のlibrairie「書店」、このように形がほぼ同じであるが、意味が異なる語はフランス語で faux amis「偽の友達」と呼ばれ、学習者をしばしば戸惑わせるものである。

他の口マンス諸語も英語と「偽の友達」となっている。スペイン語 librería、イタリア語libreria、ブラジルポルトガル語livraria、これらはすべて「書店」の意味であって「図書館」ではない。

「偽の友達」には要注意！



京都外国語大学
Kyoto University of Foreign Studies
京都外国語短期大学
Kyoto Junior College of Foreign Languages



GAIDAI BIBLIOTHECA　図書館報 第245号

図書館報に掲載されている筆者の氏名、職位、専門分野、学科、卒業年、年次生、会社名等はご本人の許諾を頂いています。なお、この館報は刊行後約1ヶ月でデジタル化して本学図書館のホームページで公開します。

https://www.kufs.ac.jp/toshokan/

発行日　令和8(2026)年5月11日

編集　京都外国語大学付属図書館（榎本・戸田）

キャラクターデザイン　京都外国語大学教育支援部　笠井裕莉

発行所　京都外国語大学付属図書館・京都外国語短期大学付属図書館
〒615-8558 京都市右京区西院笠目町6　Tel:075-322-6028

表紙・本文デザイン　佐原誠

© Kyoto University of Foreign Studies